

愛知県長良川河口堰最適運用検討会 生物多様性愛知目標と 長良川河口域の再生

筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授
IUCN日本委員会会長
吉田正人


生物多様性とは？

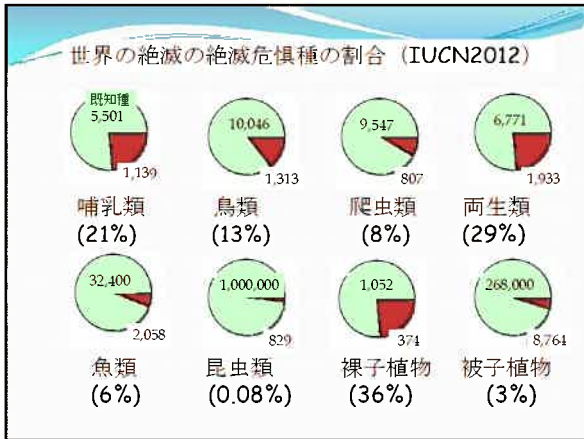
遺伝子から、
生物種、生態
系にいたるす
べてのレベル
におよぶ「生
命の多様性」
(エドワー
ド・ウィルソ
ン)



種の多様性

- 地球上には、1000万種以上の生物種が生息している
- 人間が知っているのはわずか175万種あまり
- 生物種の絶滅速度は、自然界の100～1000倍に増加





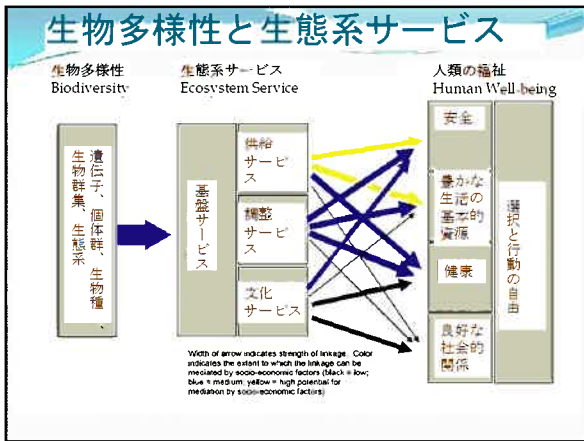
種内の多様性

- 栽培植物の野生種
 - トウモロコシは、メキシコ原産のテオシントという植物を改良し、起源2千年前にできた
 - 米国でトウモロコシに病気が蔓延したとき、原種との雑種を作ることによって病気を克服
 - しかし最近、原産地で遺伝子組換えトウモロコシが発見される

生態系の多様性

里山・里海は生物多様性の宝庫

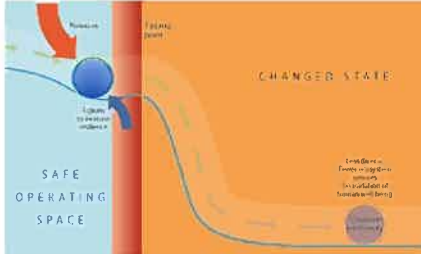






生物多様性の危機

地球規模生物多様性概況(GBO3)



地球上の生物多様性は今まさにTipping Point (臨界点)を超えようとしている

生物多様性条約COP10の成果

- 名古屋議定書 (ABS議定書)
- 愛知ターゲット (新戦略計画)
- 国連生物多様性の10年 (UNDB)



CBD-COP10(名古屋)で何が決まったか？

- 法的拘束力のあるABS(遺伝資源へのアクセスと利益の公平配分)
- カルタヘナ議定書MOP5におけるGMO(遺伝子組換生物)による被害救済



名古屋議定書 (ABS議定書)
クアラルンプール-名古屋補足議定書



CBD-COP10で  **United Nations Decade on Biodiversity**

何が決まったか？

- 生物多様性条約新戦略計画の採択
 - 2002年のCOP6で採択された2010年目標「2010年までに生物多様性の減少速度を顕著に減少させる」は残念ながら達成できなかった

↓

愛知ターゲット(生物多様性条約新戦略目標)の採択

国連生物多様性の10年の採択



COP10における市民の取り組み

- IUCN日本委員会
 - 愛知ターゲット
 - COP10-1年前シンポジウム、ポスト2010年ターゲットを議論
 - 国連生物多様性の10年
 - 国連生物多様性の10年の提案
 - おりがみプロジェクト
 - COP10のシンボルのおりがみ、2020年へのメッセージ




COP10における市民の取り組み

- CBD市民ネットワーク
 - プラットフォーム
 - 113の市民団体、93の個人
 - 政府、実行委員会と交渉、NGOルーム運営、NGO戦略会議
 - ネットワーク
 - CBD事務局、国際NGOとの連絡
 - 生物多様性対話集会
 - 生物多様性交流フェア、グローバル対話フォーラム




COP10における市民の取り組み

- CBD市民ネットワーク
 - アドボカシー
 - ポジションペーパー発表
 - 意欲的な愛知ターゲットの採択を求めるCSO宣言
 - COP10 本会議におけるNGOステートメント
 - 国連生物多様性の10年、水田の生物多様性決議、CEPA決議 など

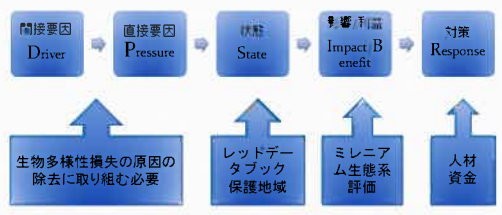




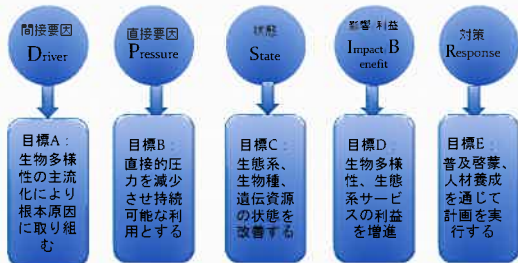
愛知ターゲット（新戦略計画）

- **2050年ビジョン**
 - 生物多様性が評価され、保全され、復元され、賢明に利用され、健全な地球と利益を全ての人々がわかちあう「**自然と共生した社会**」の実現
- **2020年ミッション**
 - 生物多様性の損失を止めるための効果的かつ緊急な行動を2020年までにとることにより、生態系の回復力と必要不可欠な生態系サービスを持続し、それによって地球の生物多様性を保全し、人類の福祉と貧困撲滅に貢献する

生物多様性損失の要因と対策 (DPSIRモデル)



生物多様性条約新戦略目標 (愛知ターゲット)



愛知ターゲット(戦略目標A)

戦略目標A 間接要因

- 目標1. 全ての人々が生物多様性の価値を認識する
- 目標2. 政府の計画指標に生物多様性の価値を組み込む
- 目標3. 生物多様性に有害な補助金を廃止する
- 目標4. 全ての関係者が行動し、計画を実行する

愛知ターゲット(戦略目標B)

戦略目標B 直接要因

- 目標5. 森林を含む生息地の損失速度を減らす
- 目標6. 過剰漁獲をやめ、持続可能な漁業とする
- 目標7. 農業・林業が持続可能に管理される
- 目標8. 環境汚染を有害でない水準におさえる
- 目標9. 外来種が制御され、根絶される
- 目標10. 気候変動の影響を最小化する

愛知ターゲット(戦略目標C)

戦略
目標C
状態

- 目標11. 保護地域を通じて生物多様性保全上重要な地域が保全される(陸域陸水の17%、海域沿岸の10%)、効果的な管理、周辺のランドスケープとの統合
- 目標12. 絶滅危惧種の絶滅が防止される
- 目標13. 遺伝的多様性の損失が止まる

愛知ターゲット(戦略目標D)

戦略目
標D
影響/
利益

- 目標14. 生態系が保全され、自然の恵みが享受される
- 目標15. 生態系が、気候変動の緩和と適応に貢献する、劣化した生態系の15%を回復
- 目標16. 遺伝資源へのアクセスが促進され、利益が公平に配分される

長良川河口域の自然再生

長良川河口堰による河口域への影響

上流域への影響

- アシ原の減少、鳥類の減少
- 湖沼化、フランクソンの発生
- 感質の悪化、メタンの発生
- 底生生物・鳥類の減少

上下流の分断

- サツキマス、アユの減少

下流域への影響

- 塩水くさびの固定、鉛直循環流の発生
- 感質の悪化、底生生物の減少
- 鳥類の減少



長良川河口域の自然再生

長良川河口堰運用による河口域の再生

河口域の再生(短期)

- ・ 流れの回復
- ・ 潮流の回復
- ・ 魚類の遡上の回復

河口域の再生(長期)

- ・ 底質の回復
- ・ 感生生物の回復
- ・ 袖水植物の回復
- ・ 鳥類の回復

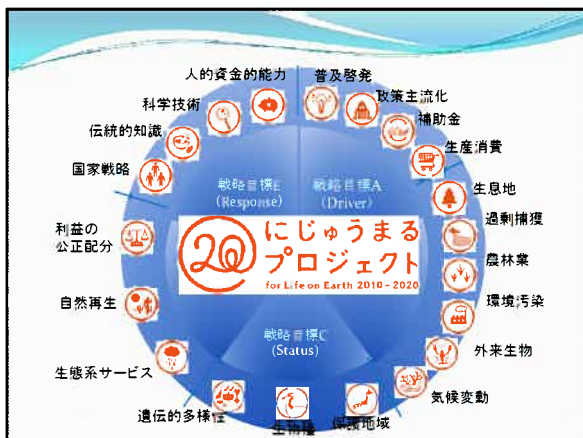
注意すべきこと
塩水を入れたまま
堰を開き、塩分咸層
を作らないこと



愛知ターゲット(戦略目標E)

戦略 目標E 対策

- ・ 目標17. 効果的で参加型の国家戦略を策定する
- ・ 目標18. 伝統的知識が尊重される
- ・ 目標19. 関連する知識・科学技術が改善される
- ・ 目標20. 人的・資金的能力が向上する



国連生物多様性の10年